

# 地域おこし協力隊通信

こんなことやっています。こんなところではがんばっています。

## 町の風物詩「イモ切り」をPR

8月23日から始まった町内5つの蔵元の「イモ切り」を、協力隊の江副佐輔さんがプレスリリース(発表資料)という手法でPRしました。

報道関係者に向けて発表される、A4用紙にまとめたプレスリリースでは、町の芋焼酎「さつま島美人」の原料芋の選別を、町の風物詩として改めて紹介。

長島研醸と、5つの蔵元の協力をいただき、取材の受け入れ体制なども調整し、共同で原稿を作成しました。

プレスリリースによって、町内外に広く認知・周知する広報の役割を通じて、江副さんは「地元焼酎の製造背景にある歴史と伝統をたくさんのかたがたに知ってもらい、さつま島美人がさらに愛されてほしい」と話しました。

県庁記者クラブ(青潮会)を介して、県内24の媒体に発表資料が行き渡ります。



## 児童クラブで鳥獣対策活動を講演

協力隊の長谷川一総さんが鷹巣児童クラブで、イノシシなどの鳥獣被害対策の活動や町の現状を児童らに伝えました。

8月10日、夏休み中の鷹巣小学校の児童ら20人が参加し、約2時間の講演や実演が行われました。

これは、夏休みに行われる学習会の一環で、町内のさまざまな知見をもったかたを招き、講演してもらう取り組みです。

講演では、被害を出している動物の特定から捕獲し



て仕留めるまでの一連の流れを専用の道具や映像などを交えて解説しました。

暗視カメラで撮影された動物の映像や、くくりわなの仕掛けの実演に、児童らは真剣な眼差しで見入っていました。

放課後児童支援員の児玉あゆみさん(本町)は「町の



長谷川さんは「長島の鳥獣被害について少しでも興味を持ってもらえれば幸いです」と、今回の講演を振り返りました。

被害状況や猟友会の話などを通じて、イノシシが危険であることを子どもたちに知ってもらえた」と感謝していました。